

EV路線バス 出発進行

遠鉄 きょうから浜松で



遠州鉄道が初めて導入したEVバス＝浜松市中央区で

遠州鉄道(浜松市中央区)は県西部で初めて電気自動車(EV)の路線バス1台を導入し、3日から営業運転を始める。温室効果ガス

の排出削減に加え、静かな走行音や乗り心地の良さをアピールする。車両は中国大手の比亞迪(BYD)製「K8 2・0」。

(寺本康弘)

全長10・5㍎、全幅約2・5㍎、全高約3・3㍎、乗車定員78人で25座席を備える。容量314㍎時のバッテリーを搭載し、1回の充電で240㍎の走行が可能。座席にはスマートフォンに充電に使えるUSBポートを装備している。購入費は非公表。

同区の三方原営業所に配置し、浜松駅と浜松医科大学を結ぶ「山の手医大線」を中心に北部方面の路線で1日5往復程度運行する。静岡文化芸術大デザイン学科2年の山本修平さん(21)が「未来に繋ぐ」をコンセプトに考案したデザインの塗装を施した。

遠鉄は2030年度までにEVバス17台を導入する目標を掲げる。同営業所で2日に車両のお披露目と試乗会があり、丸山晃司社長は「毎年計画的に導入していく」と述べた。